

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年4月10日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・5歳児「原っぱと畑探検と草むしり・・・何がみつかるかな」

<テーマ設定理由>

園地内に畑を借りている。毎年、年長児がさつまいもを育てている。草むしりをして、畝づくりをし、さつまいもの苗を植える収穫までの経験をしている。畑に草むしりに行く機会に、子ども達が草や土、虫などの自然に触れ、子ども達が何に興味関心を持ち、次の探究活動につながっていくか？発見を楽しめるようにしていきたい。

2. 活動スケジュール

年長児になって始めて畑の草むしりに行き、グループごとに原っぱで自然に触れる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・原っぱで見つけた自然物を直ぐに調べられるように、昆虫・草花のミニ図鑑を持っていく。
- ・ビニールを準備して置き、「持って帰って調べたい。」という時には、摘んで帰る。
- ・カメラで写真を撮って後で調べられるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

草むしりが楽しかったようで、夢中になって取る姿がある。その後20分ほど原っぱを探索して楽しむ。草花を摘んだり、虫探しをしたりしている。部屋から小さい図鑑を持って行ってだったので、それをみながら何の虫か、草花かを調べる姿もある。



<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- ・作物を育てる際になぜ草むしりをするのか疑問に思い、質問する子どもがいた。この問いに対して、保育者は回答せず子どもに問い返すと、自分で考えて意見を述べていた。「じゃまだから」「せまくなるから」「とらないとうえられないよ」などいろいろな言葉が聞かれた。いろいろな草が苗と同時に育つことを一緒に考えると、大きくなれないということに気づく子どももいた。こうしたやり取りから、野菜の苗を育てるときに、他の雑草などに栄養を取られてしまうことが分かった様子。
- ・そのうえで、せっかく育てるのなら大きい作物の方が嬉しい、大きい野菜を育てたいという気持ちが生まれた様子。大きく育てるためにはどうする？という考察までは生まれなかったものの、自分たちがお世話をして大きくするという気持ちにつながっていった。
- ・なぜ雑草をむしる必要があるのかをみんなで考えてからは、「ねっこをなくそう」「たくさん引っこ抜こう」と手で土を掘って夢中になって行っていた。自分はこれだけ抜いた、友達はこんなに抜いた等の比較から、競争のようになりたくさん抜いたほうが嬉しい気持ちを表して、更にたくさん抜くことに一生けんめいになっていった。
- ・雑草を抜く中で、虫がいることに気づいた子どもも多い。抜いた土の中から見つけたり、土の上を歩いている虫を見つけていることもあった。
- ・虫の名前が分かっているものとそうでないものがある。名前が分からないものほど興奮したように「なにこれ」と子どもの発見の驚きや喜びが大きく、周りに子どもが集まっていた。
- ・畑の雑草抜き後は、原っぱの探索をする。何かがあるか？の問いをもって歩き回って足元をよく見ながら探している。
- ・草花や虫が見つかる嬉しそうに担任に伝えてきたり、友達に見せたりしている。
- ・持って行ったミニ図鑑で一通りページをめくって調べている。
- ・知っているものを「〇〇だ」と伝える子ども、「これ何」と保育者や友達に聞く子どもがいた。
- ・図鑑に載っていないと、「帰ったら大きい図鑑で調べてみたい。」という子どももいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・原っぱに行くこと自体が久しぶりで子ども達は喜んでいました。
- ・目的を「草むしり」と限定せず、探検しに行く気持ちで向かったことがよかった。子どもも今、原っぱがどんな様子か畑はどうなっているかを想像することにつながり、自分が見つけたものの創造と意欲につながっていた。
- ・草むしりだけをしに来たのではないということがいろいろな期待につながった。
- ・草むしりも予想以上に楽しんでいました。抜いた草も様々な種類があり、根っこが長かったり、すぐに抜けるものとそうでないものがあり、比べたり、集めたり、楽しみ方もそれぞれだった。
- ・細かいひげのようなものも丁寧に抜いている子どももいた。
- ・はじめは抜くことに集中していたが、ある程度抜けてくると、雑草以外のものに関心が移っていった。たくさんの虫がいたので捕まえたり、咲いている花を図鑑で調べたりしていた。
- ・原っぱを探索する際に色々な種類のものを集めると思ったので、図鑑を持って行った。
- ・子ども達も予想以上に自分で調べようとする姿があった。
- ・その姿を大切にしながら園に戻ってからより詳しい図鑑で調べたりができるよう、保育室内に写真で撮ったものを掲示した。これからの興味関心に繋げていきたい。(←保育室掲示物)